

農業総合研究センター かわら版

第54号 平成21年11月18日 発行

山形県農業総合研究センター 研究企画部

〒990-2372 山形市みのりが丘6060-27

電話：023-647-3510

研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見ご要望をお待ちしております。

吉村知事がセンターで「つや姫」稲刈り

～研究企画部～

吉村知事が10月1日に農業総合研究センター（山形市みのりが丘）で、水稻新品種「つや姫」の稲刈を行いました。

今年5月に知事自ら田植えをした圃場において、かすりの作業着を身に付け、黄金色に実った稲穂を手際よく刈り取りました。



吉村知事、つや姫の収穫の様子



テレビ番組「やまがた発！旅の見聞録」の収録が行われました。タレントの山口良一さんがつや姫稲刈りに挑戦。

10月10日には、山形市霞城セントラルで先行販売イベント「つや姫プレデビューイベント in YAMAGATA」が催されました。当日は館外にあふれるほど多くの方が来場し、準備された2kg袋の「つや姫」300袋は、30分ほどで売り切れとなり、県民みなさまの関心の高さがうかがわれました。

農業総合研究センターでは、10月末から今年収穫された米の食味官能試験が始まっております。高品質で美味しい「つや姫」の栽培技術の確立を目指し、研究データの蓄積を進めています。



新しい種なしスイカの需要調査(東京) ~園芸試験場~

野菜花き研究科では、昨年度から新しい種なしスイカの栽培試験に取り組んでいます。

従来から種なしスイカは3倍体と呼ばれる専用品種がありましたが、これらは栽培特性や品質上の問題から作付けが限定されてきました。新しい種なしスイカは通常の2倍体品種の雌花に、軟X線という弱いX線を照射した花粉を受粉することによって、通常の品種の品質をそのままに、種なしにするものです。ただし、種なしと言っても完全に種がなくなるわけではなく、種は白くて薄い「しいな」と呼ばれるものに変化して残ります。今回は「しいな」が食べた時に気になるか？ また、栽培にはコストアップが予想されることから、どれぐらいの価格差まで認められるか？ などについて、首都圏の一般消費者を対象として調査しました。



種あり、種なし双方を試食していただきました。
専用のスイカ包丁に皆さんビックリ。



300名以上の方に食べていただきました

調査は9月29日、銀座の山形県アンテナショップ「おいしい山形プラザ」店頭において、実際に種なしスイカを食べていただき、アンケートに御協力いただきました。今回は尾花沢の現地圃場で9月下旬に収穫されたスイカを使いましたが、まずこの時期にこれだけおいしいスイカがあるということに皆さん驚かされていました。調査結果は現在解析中ですが、「しいな」はほとんどの方が気にならず、価格は1~2割アップまでは許容できるとする意見が多かったようです。また、商品化を望む声もいくつか聞かれました。

今後は課題を整理し、県内への普及や商品化について取り組んでいく計画です。

日本産業動物獣医学会賞(東北) 2年連続の受賞 ~養豚試験場~

養豚試験場主任専門研究員の富樫克博氏が平成21年9月17日から9月18日青森市において開催された日本産業動物獣医学会(東北)において「豚サーコウイルス2型感染(PCV2)による異常産続発事例とワクチン効果」と題した発表を行い、奨励賞を受賞されました。富樫氏は昨年の同大会で最高位の学会長賞を受賞しており、栄えある2年連続の受賞となりました。

PCV2は全国の養豚農家でも特に被害が大きく注視されている疾病であり、発表内容が現場に応用できると高く評価されたものです。また、昨年は豚浮腫病の検査方法(ELISA法)の開発について発表し、従来の複雑な検査に比べ簡易で迅速に行える点が高い評価を受けました。いずれも現場での応用を強く意識した内容で、富樫氏の現場目線での研究姿勢が連続受賞につながったものと思われます。



水田農業試験場 森静香 専門研究員と酒田農業技術普及課 菅原敬 主任専門普及指導員の2名が、岩手大学大学院連合農学研究科教授会から博士(農学)学位を受位され、9月25日(金)に岩手大学(盛岡市)で授与式が行われました。

森 専門研究員の学位論文は「水稻における潮風害の予測, 被害把握および被害軽減技術の開発に関する研究」で、2004年に発生した台風15号による甚大な被害を契機として地道な研究に取り組んだ成果です。

菅原 主任専門普及指導員の学位論文は「山形県における花き菌類病害の診断・同定と減化学薬剤防除に対する研究」で、庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室において、県内の花きに発生する病害の研究を精力的に取り組んだ成果です。

常に冷静な判断と細かな観察力を持ち、日々の研究に真正面から取り組む姿勢は他の模範です。今後の一層の活躍を期待するとともに、後に続く研究者の登場が囑望されます。

学位取得にあたり、山形大学農学部 安藤教授、生井教授、藤井教授はじめ山大農学部の諸先生の御指導に改めて感謝申し上げますとともに、本人を支えたご家族に敬意を表するものです。

「水稻における潮風害の予測, 被害把握および被害軽減技術の開発に関する研究」

農業総合研究センター水田農業試験場
森 静香 専門研究員



森さんは、当場に勤務以来、効率的なケイ酸施用法、日照不足や潮風害の気象変動に対応した水稻の安定生産、産米の食味向上に関連した技術開発に一貫して取り組み、日本土壌肥料学会を中心に数々の研究業績を上げてきました。特に、水稻の収量・品質に大きな影響を与える気象災害である潮風害に対するケイ酸の有用性を明らかにし、現場におけるケイ酸地力及びケイ酸施用の重要性を再認識させるに至っています。常に冷静な判断と細かな観察力を持ち、日々の研究に真正面から取り組む姿勢は他の模範です(水田農試)。



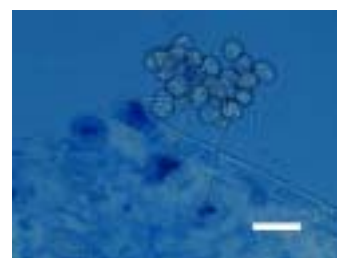
2004年の台風15号による潮風害

「山形県における花き菌類病害の診断・同定と減化学薬剤防除に対する研究」

庄内総合支庁酒田農業技術普及課
菅原 敬 主任専門普及指導員



菅原さんは、庄内産地研究室勤務時代、県内の花き病害を正確に診断するための研究に鋭意に取り組みました。県内で38種類の初発病害を確認し、うち32病害は国内でも初発であることを解明しました。また、これらの研究成果を中心に図鑑的な取りまとめを行い、やまがたアグリネット(通称あぐりん)で公開しました。さらに、土壌還元消毒法が砂土でも有効であることを確認するなど、環境に優しい研究を展開しました。県内花き産業の発展のため、正確な診断・的確な防除の基礎となる研究に地道に取り組んできた姿勢は他の模範です。



病徴や顕微鏡写真が診断の手助け